

エナ魂 2011 レポート

蒸し暑い梅雨時の風物詩「エナ魂 2011」が今年も 6 月 26 日日曜日に開催されました。

今年は「エントリー」「ミドル・シニア」「ミドル」「オープン」の全 4 クラスに
定員 MAX の 120 名の選手にご参加いただきました。

予選課題は各クラス 16 課題で「オープン」クラスは 1 番～16 番、「ミドル」「ミドル・シニア」クラスが 9 番～24 番、「エントリー」クラスが 17 番～32 番の課題にトライします。
「オープン」以外はひとつ上のクラスと課題が半分かぶさっているので参考にもなります。

「エントリー」

「エントリー」クラスの参加選手は 35 名でその内女性が 15 名でした。25 番～32 番の課題は比較的やさしめで 90 パーセント以上の完登率でしたがゴール取りに思い切りが必要な 28 番と傾斜の強い 32 番が難しく、この 2 課題を含めた「エントリー」クラス専用 8 課題を全完出来たかが決勝への第一関門であとは「ミドル」「ミドル・シニア」とかぶる 17 番～24 番を 2 完 3 ボーナス以上の選手が決勝進出となりました。女子選手数名が 17 番～24 番で 2 完 3 ボーナス以上の成績を収めていながら 28 番や 32 番を完登出来ずに決勝進出を逃しており、強傾斜・ダイナミックムーヴは女子は苦手な場合が多いのですが弱点があると決勝に残れないという形でした。

決勝は第一課題がスラブでなんと足自由のノーハンドトラバース。前日に良い足をいくつか足してうまく選んでもらえれば 5 級くらいかな？というグレードでした。しかし慣れていない動きなのか足を大きく動かす選手が多く次々と撃沈し、オブザベの時に「足自由なら簡単じゃん」と豪語した中 1 女子の木暮選手のみ足を小刻みに選び完登でした。

第二課題はウェイブ、スタート直後の 1 手が悪くその後も足をうまく運ばないとつらいホールドで足ブラになってしまう 4 級程度の課題で桂井選手、谷本選手は B2 まで、近藤選手が 3 撃、川口選手、木暮選手が 2 撃、最後に登場した加藤選手が 1 撃、勝負は第三課題となりました。

第三課題はバレル、薄被りから垂壁に抜けたところの大きなスローパーの処理が核心の3級課題。ここまで2完で一步リードの木暮選手は完登できず、川口選手が2撃、加藤選手が1撃。よって同じ2完登ながら2完2撃の加藤選手が優勝で2完3撃の木暮選手が2位、2完4撃の川口選手が3位となりました。

「ミドル・シニア」

「ミドル・シニア」クラスは参加10名で全員男性でした。予選課題は「エントリー」クラス難しめの17番～24番と「オープン」クラスと同じ9番～16番の全16課題。いささか厳しめの設定で10完11ボーナスの高島選手から5完8ボーナスの岸田選手までが決勝進出、以下も僅差でした。

決勝第一課題はスラブ、デリケートなトラバースから最後は直上する3級課題。やはりスラブは苦手なのか、はたまた2分半（最終トライは時間内にスタートすればOK）という時間が短いのか金子選手のみB1に到達、最後慎重に行けば完登できたかもしれないナイストライで一步リード。

第二課題はウエイブ、ややこしい出だしからデッド、寄せも悪くそのあとも遠いバシバシ系の割にはホールドが少し悪目の2級。デッドを止めても壁の性質的に足位置をしっかり覚えていないと見つけるのが難しくなかなかB1に到達できない中、予選3位の野中選手と予選1位の高島選手がそれぞれB1までゲット。

第三課題はバレル、甘い大きなアンダーを両手でマッチしてB2、そこから大きく飛び出してB1の1級課題。さすがに疲労の色が濃くなったシニア勢、マッチまでは何とか到達するもその先が出ずに終了。B1のアテンプト勝負となり、2撃の野中選手が優勝、3撃の金子選手が2位4撃の高島選手が3位となりました。

「ミドル」

「ミドル」クラスの参加選手は最多の42名で内9名が女性でした。予選課題は「ミドル・シニア」と同じ9番～24番で「オープン」クラスと同じ9番～16番にも17番～24

番の難しめよりも落としやすい課題があるのでオブザベと情報収集で効率よく完登を稼いでいくのが上位への鍵だったようです。12完15ボーナスの矢野選手から10完12ボーナスで同着の滝澤選手、瓦井選手までが決勝進出。滝澤選手、阿久津選手と女性が2名決勝に残りました。

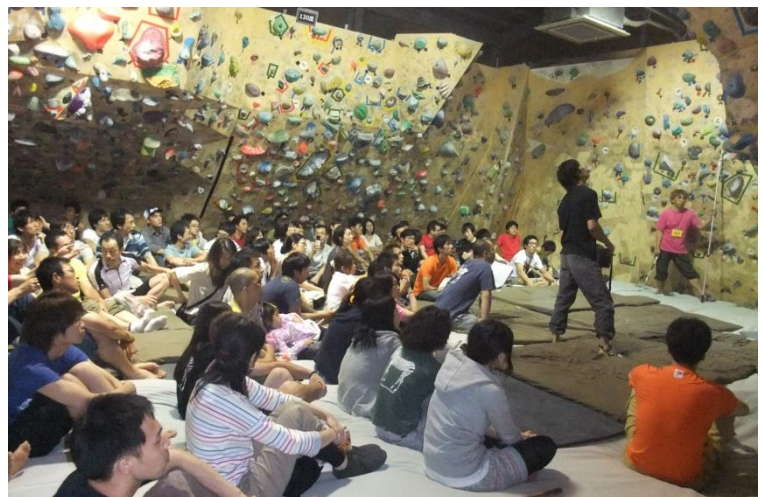
決勝第一課題は115度、スローパーからクロス気味に掛りの良いガバカチにデッド、足ブラをこらえて甘めのホールドでクロスを返していく2級課題。矢野選手、板倉選手、阿久津選手、堀口選手が1撃、瓦井選手が2撃で続きます。

第二課題はルーフ、出だしからの悪い足、方向の悪いガバで耐えルーフを抜けた先のB1ガバが少し遠く、ゴール手前の2つのホールドが持ちどころに悩む2級課題。完登が出なかったこの課題でB1までを1撃し第一課題が1撃だった矢野選手と板倉選手がアドバンテージを得て最終課題へ。

第三課題は150度、出だしがダブルダイノでB1を止め、その後大きな岩ホールドの持ちどころを探し、甘いサイドホールドからB2のスローパーからゴールの1級課題。B1は全員到達するもB2が一人も出ず、結果4人が1完登1撃。2×B1の3人中阿久津選手が3撃で3位、2撃の矢野選手、板倉選手はB2アテンプトまで同じで決勝は同着、予選の成績により矢野選手の優勝となりました。

「オープン」

「オープン」クラスの参加選手は31名、紅一点の池田選手の健闘に期待が集まります(オープンクラス男子選手以外)。予選課題は1番～16番、1番～8番はオープンクラ



ス専用課題です。課題は3級～二段と難しめながら上位陣のレベルは高くなんと唯一人余裕の全完若尾選手から11完14ボーナスの山本選手、田中選手までが決勝進出です。11完登しながらも12ボーナスの山田選手はおしくも予選敗退でした。また、紅一点池田選手も残念ながら予選敗退でした。「ミドル」クラスとかぶる9番～16番の課題でも落としづらそうな課題は後回しにしてオープン専用課題の落としやすい課題を先に完登した選手が上位陣には多かった様です。

決勝第一課題は115度、甘いピンチからガバに出てそこからはラインがよくわかりづらいやさしめの1級課題で、後半部分は上まわり（設定ライン）する選手と下回りする選手とに分かれ、ゴール取りも4パターン位に分かれました。全員完登でしたが1撃か2撃かが順位に響きました。

第二課題はルーフ、フック技を駆使してルーフ部分を抜けその先の遠いポケットがB1、そこからは甘めのホールドに狭い足そして距離を出しながらゴールを目指す1級予定ながら設定者暴走の初段（以上？）課題。完登者は出ず、B2までは全員1撃、B1に到達出来なかった湯澤選手、田中選手が不利な状況となりました。



第三課題は150度、掛りの良いカチをつなぎ「ミドル」クラスの決勝でも使用した大きな岩ホールド持ち所を探り、木ハリボテのジブスをたどって自作の大きなボテホールドへ、ここをマッチし（若尾選手のみ次のホールドマッチ）→スローパー→ゴールの甘めの初

段課題。山内選手、湯澤選手、若尾選手が1撃し2完登が4人。2完4撃の長尾選手が4位、2完3撃の若尾選手が3位、山内選手と湯澤選手は共に2完2撃でしたが第二課題の

B 1 を湯澤選手は取れていなかったため B 1 数の差で山内選手が優勝となりました。山内選手の決勝での安定感は見事でしたし、決勝では順位を下げてしまいましたが予選全完の若尾選手の重力を感じさせない登りは決勝でも圧巻でした。



今回は各クラス毎に予選課題を設定する例年とは違う方式を採用しましたが、予選の課題数を 16 課題としたことでグレードの幅を持たす事ができ、比較的下位の選手まで完登数を稼げ、また順位もある程度ばらけてくれました。「エントリー」「ミドル・シニア」クラスには少し難しすぎた感があるのと、3 クラスだとクラス間の格差が大きい感じだったので来年への課題としたいと思います。

また、決勝課題は「エントリー」は適度、「ミドル・シニア」はやりすぎ、「ミドル」は第二課題、第三課題がもう少しやさしめに、「オープン」は第二課題の B 1 から先がもう少しやさしければ盛り上がったかな～と思います。まあ「ミドル・シニア」以外はさじ加減の問題でここが難しいところです。

最後になりましたがご参加いただきました選手の皆様、ご協賛いただきました(株)サンダンスアウトドアーズ様、(株)キャラバン様、(株)ロストアロー様、スタッフの皆様、今年も盛り

上げていただきありがとうございました。

また、来年もよろしくお願いたします。

エナジークライミングジム

林



〈オープンクラス〉



〈ミドルクラス〉



〈ミドルシニアクラス〉



〈エントリークラス〉



